



西川監督から贈る言葉



平井は、セレクション参加時に行った紅白戦で足にボールが当たり負傷と怪我との戦いはこの時から始まっていたのかも知れませんね。

総会に参加した時の体型をみて、明らかな体重オーバーが明白なのに、「いいえ体重は少しだけ増えただけです」とパンパンな顔で真面目に答えていたのを思い出します。

1年目の前半は怪我で出遅れるも、自分に厳しくなって身体を絞り本来のプレースタイルを取戻し、夏以降は自分を鼓舞するためか「僕なら出来ます」とガンガンアピールをしてきましたね。

新チームを見据えた奈良県知事杯から1番に座り最強の1番打者として活躍をしてくれました。

2年目は1番打者としての活躍は言うまでもありません。

都市対抗2次予選での日本生命戦にあわやと思わせた戦いでも、特攻隊長として切り込んで、十河監督から「やっかいな一番だ」と言わしめたものでした。

そして、全日本クラブ選手権大会では、首位打者を取って「人生で初めての賞です」と喜んでいたので思い出します。

今年も怪我に泣かされる年になりましたが、それでも野球に対して真摯に取り組み、何度怪我に悩まされようと、それを克服して立ち上がってきました。

平井と言えば、一塁までの「全力疾走」はもちろん、ポジションまでの「全力疾走」とどんな時でも手を抜かずに他の選手を背中で引っ張ってくれました。

これから、第2の人生に歩みますが、自分の怪我を踏襲しながら色々な人達の手助けをして下さい。